資料6－1

第七次甲府市総合計画策定に向けた
市民ワークショップ
～甲府の未来を話そう～

報　告　書

令和７年３月

甲　府　市

目次

1. 概要 1
   1.1. 目的 1
   1.2. 日時 1
   1.3. 開催場所 1
   1.4. 出席者 1
   1.5. テーマ 1
2. 当日の実施内容 3
   2.1. プログラム 3
   2.2. 当日レイアウト 3
   2.3. 開会の挨拶・趣旨説明 3
   2.4. グループワーク 4
      2.4.1. グループワークの流れ 4
      2.4.2. グループワーク詳細 6
3. ワークショップの実施結果 10
   3.1. 意見の一覧（甲府市の良いところ/改善点） 10
   3.2. 意見のまとめ（甲府市の良いところ/改善点） 17
   3.3. 意見の一覧（甲府市の理想の未来像とやってみたいこと） 18
   3.4. 意見のまとめ（甲府市の理想の未来像とやってみたいこと） 25
   3.5. グラフィックレコーディング 26
   3.6. 閉会の挨拶 27
4. 参考資料 28
   4.1. 集合写真 28

1. 概要

1.1. 目的

本ワークショップは、以下を目的として実施しました。

- 第七次甲府市総合計画策定に向け、甲府市の課題や市民ニーズを明らかにし、目指すべき姿を実現するための、市民目線の意見や提案を収集する。
- 市民参加を促進し、第七次甲府市総合計画に対する理解と協力を得る。

1.2. 日時

令和 6 年 12 月 15 日（日）14 時 00 分から 16 時 30 分まで

1.3. 開催場所

甲府市役所　6 階大会議室

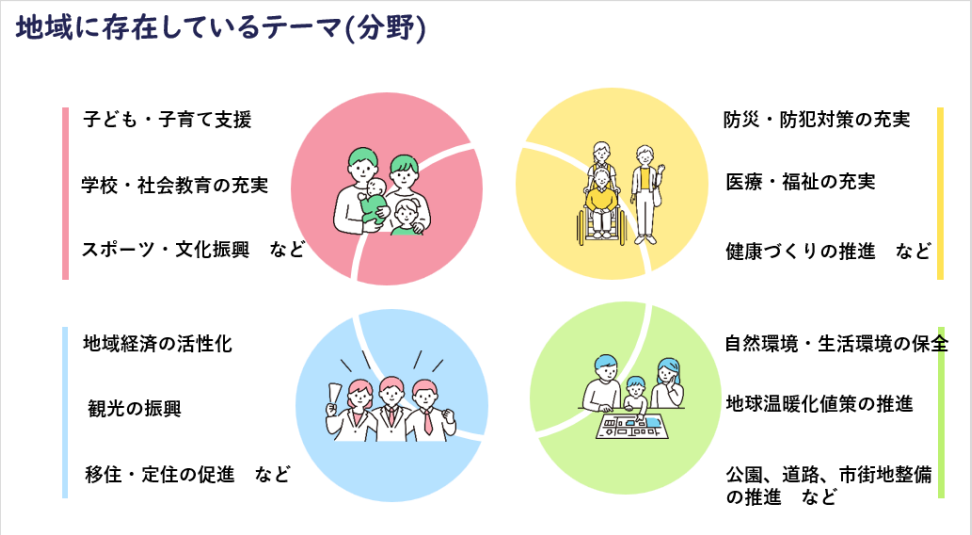
1.4. 出席者

【参加者】
甲府市に関わりのある 15 歳以上の方を対象とした一般公募市民　33 名

【事務局】
甲府市総合計画担当（今村、宮野、保坂、小池、深澤）
株式会社セカンドファクトリー（齋藤、横須賀、谷川）
アビームコンサルティング株式会社（陸川、烏川、大森）

1.5. テーマ

甲府市の強みや目指す姿について、参加者が関心を持つ分野にグループを分け、市や地域の現状（Good）具体的な課題（Bad）を洗い出し、理想の未来像や、理想に近づくためのアクションを考える。



図表 1 地域に存在しているテーマ（分野）

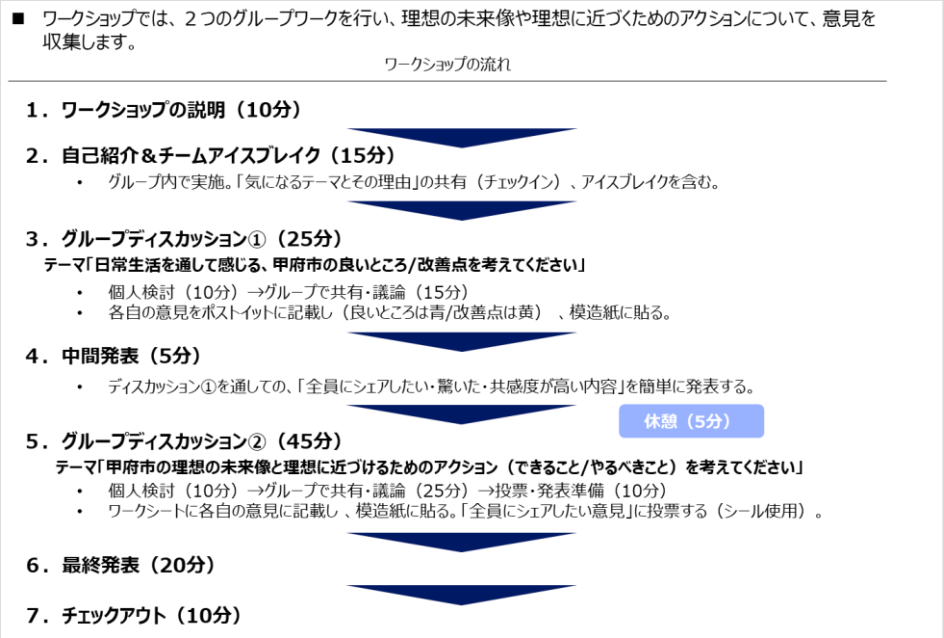
分野	グループ
①子ども・子育て支援、学校・社会教育の充実、スポーツ・文化振興	A、G
②地域経済の活性化、観光の振興、移住・定住の促進	B、E、F
③防災・防犯対策の充実、医療・福祉の充実、健康づくりの推進	C
④自然環境、生活環境の保全、温暖化対策の推進、公園・道路・市街地整備の推進	D

図表 2 各グループとテーマ（分野）

2. 当日の実施内容

2.1. プログラム

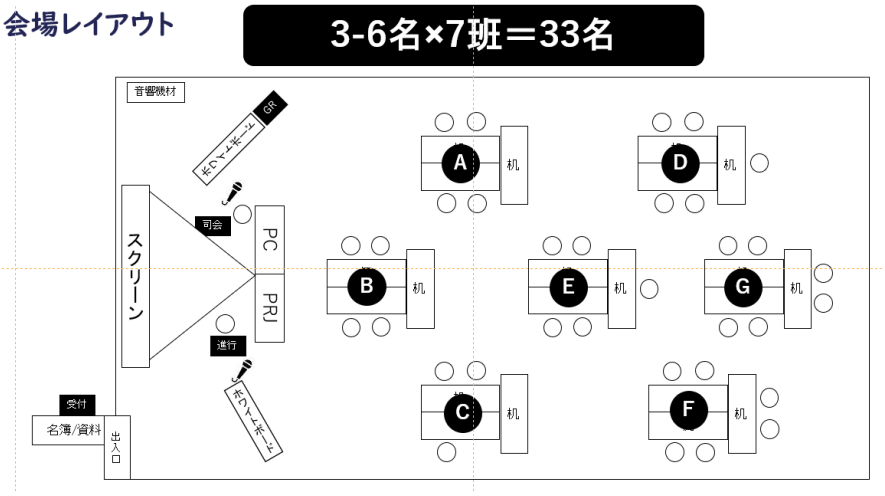
当日は以下の流れに沿って実施しました。



図表 3 当日の流れ

2.2. 当日レイアウト

当日は以下のレイアウトで実施しました。参加者を希望テーマごとに７グループに分け、１グループあたり３～６名の人数でグループワークを行いました。



図表 4 当日レイアウト

2.3. 開会の挨拶・趣旨説明

樋口市長からワークショップ参加者に向けて、開会の挨拶、社会ニーズに応じた今後の市政方針についてお話しいただきました。また、企画部政策課今村課長から、甲府市総合計画及び甲府市の歳出決算額について説明し、アビームコンサルティング烏川から、甲府市を取

り巻く時代の潮流・社会の動向について説明しました。

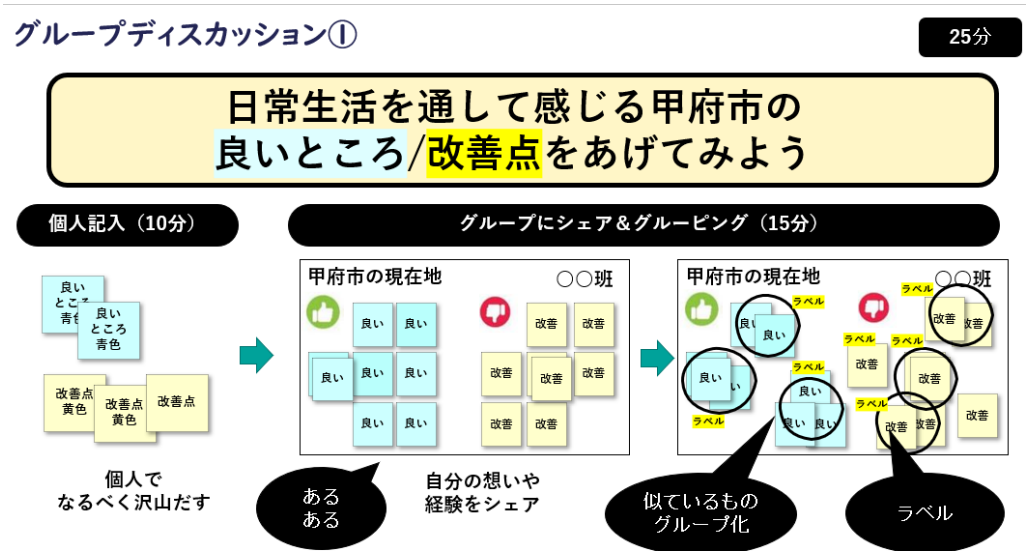
図表 5 開会挨拶･趣旨説明の様子

2.4. グループワーク

全体説明の後、参加者の自己紹介（チェックイン）を行い、グループワークを実施しました。グループワークでは、グループ毎にディスカッションを行い、最後にすべてのグループが発表を行いました。グループワークの流れと、それぞれの詳細内容は以下のとおりです。

2.4.1. グループワークの流れ

グループワークは進め方の説明から始まり、グループディスカッション①では、個人ワークを通じて考えた意見について、グループ内でディスカッションをした後、中間発表を行いました。グループディスカッション②では、①を踏まえ、個人ワークを行い、再度グループ内でディスカッションをした後、最終発表を行いました。詳細な流れは以下のとおりです。

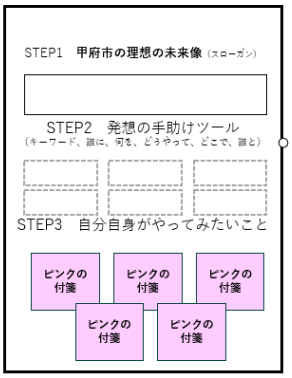


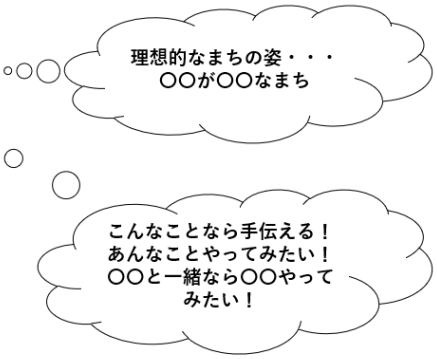
図表 6 グループディスカッション①の流れ

グループディスカッション② 個人ワーク

個人ワーク10分

甲府市の理想の未来像とやってみたいこと



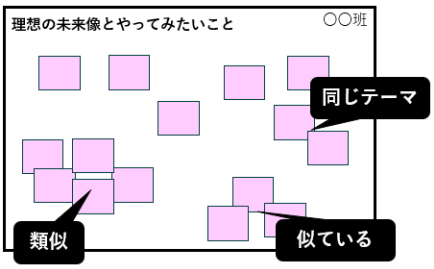


21

グループディスカッション② グループワーク

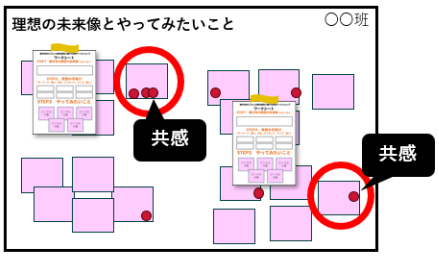
35分

グループに物語をシェア（25分）1人2分程度



- 想いや背景を伝えてシェアする
- 類似のアイデアやテーマをまとめる

盛り上がったり、共感度の高いものを2つ程度選ぶ（10分）

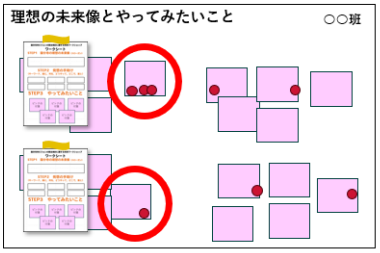


- 共感シール貼り付け（一人3枚）
- 数が多いものに〇を付ける（1～2個程度）
- 元になったワークシートを貼る

最終発表

20分

理想の未来像とやってみたいこと（1つ～2つ）



- 甲府市の理想の未来像を伝えてください
- 理想に近づけるために「やってみたいこと」を伝えてください
- 「背景や想い」も添えてください

図表 7 グループディスカッション②の流れ

2.4.2. グループワーク詳細

（１）全体説明

グループディスカッションの進め方についての全体説明を行いました。実施するグループワークについての説明として、テーマやワーク時のグランドルールなどの確認を行いました。

図表 ８ 全体説明の様子

（２）自己紹介

最初のワークとして、アイスブレイクも兼ねて自己紹介を行いました。ワークシートを用いて、「甲府市の良いところ・改善してほしいところ」「参加した理由」や「似顔絵・ニックネーム」を各人で記入した後、グループ内で自己紹介しました。

図表 ９ 自己紹介の様子

（３）グループディスカッション①

個人ワークであげた、日常生活を通じて感じる「甲府市の良いところ/改善点」をグループ内で共有しました。その後、中間発表に向け、各グループでアイデアを整理しました。

図表 10 グループディスカッション①の様子

（４）中間発表

グループディスカッション①のまとめとして、「甲府市の良いところ/改善点」についてグループで話し合った結果を発表しました。

図表 11 中間発表の様子

（５）グループディスカッション②

グループディスカッション①を踏まえ、甲府市の「理想の未来像」と、理想に近づけるために自分にできること、やってみたいことを個人ワークで考え、グループで意見交換を行いました。最終発表に向け、各グループで発表資料の最終化を行いました。

図表 12 グループディスカッション②の様子

（６）最終発表

グループワークの最後のまとめとして、甲府市の「理想の未来像」と理想に近づけるために自分にできること、やってみたいことについて話し合った結果をグループ毎に発表しました。

図表 13 最終発表の様子

3. ワークショップの実施結果

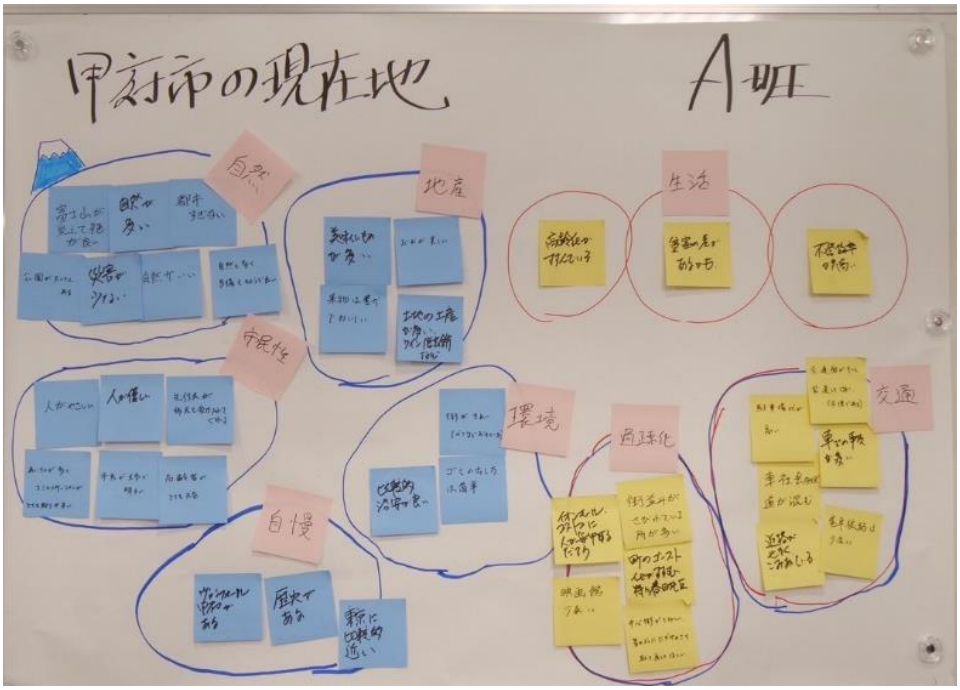
ワークショップを通じて、甲府市に関する多くの意見が出ました。各グループが話し合った内容や発表した意見は以下のとおりです。

3.1. 意見の一覧（甲府市の良いところ/改善点）

各グループより出された意見をまとめました。

＜A 班＞

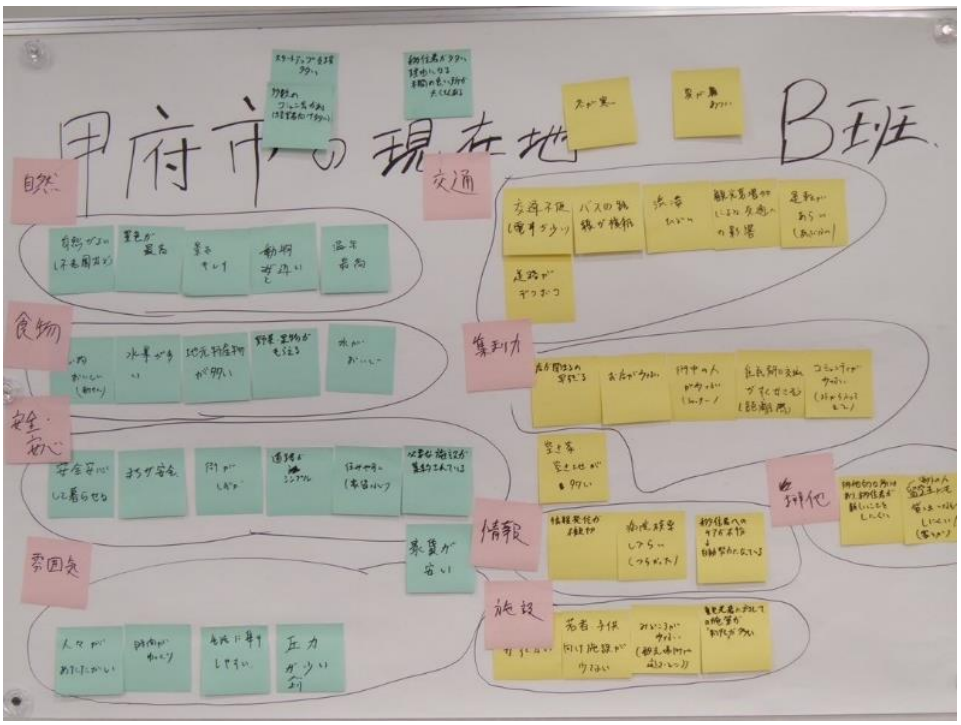
甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・富士山が見えて景色が良い。 ・自然が多い。 ・都市過ぎない。 ・公園が多い。 ・災害が少ない。 ・果物がおいしい。 ・水がきれい。 ・ワインや信玄餅などお土産が多い。 ・食べ物がおいしい。 ・人が優しい。 ・移住者を受け入れる雰囲気がある。 ・高齢者含め市民が元気で明るい。 ・ヴァンフォーレ甲府がある。 ・歴史がある。 ・東京に比較的近い。 ・治安が良い。 ・街がきれい。 ・ゴミの出し方が簡単。	・貧富の差があるかもしれない。 ・高齢化が進んでいる。 ・ショッピングモールに人の集まりが集中している。 ・中心街などが良い時より繁栄していない。 ・車社会なので道が混む。 ・交通事故が多い。 ・電車の路線が少ない。



図表 14 発表用模造紙①（A 班）

＜B 班＞

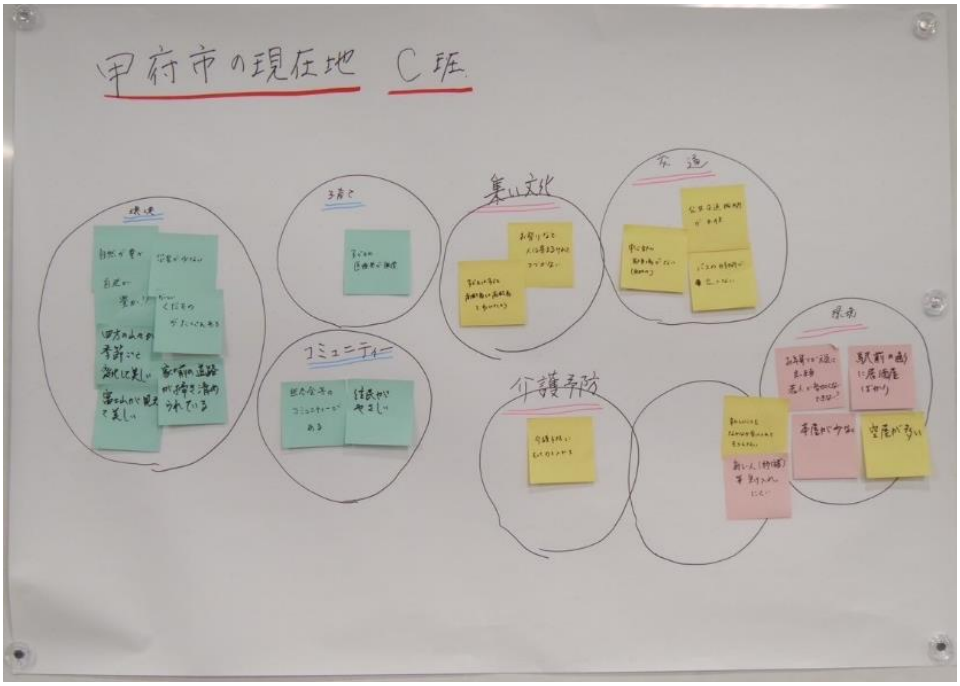
甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・自然が良い。 ・景色が良い。 ・動物が身近。 ・温泉がある。 ・果物など食べ物がおいしい。 ・水がおいしい。 ・特産品が多い。 ・安全で住みやすい。 ・街が静か。 ・施設が集約されている。 ・家賃が安い。 ・人が良く雰囲気が良い。 ・ゆっくりした雰囲気がある。 ・自分の生活に集中できる。	・夏に暑く冬に寒い。 ・交通の便が悪い。 ・電車が少ない。 ・バス路線が複雑。 ・渋滞がある。 ・道路整備が進んでいない。 ・店の閉まる時間が早い。 ・店が少ない。 ・街中の人が少ない。 ・住民間の交流が少ない。 ・空き家と空き地が多い。 ・情報発信力が低い。 ・移住者の手続きが不便。 ・若者、子供向けの場所が少ない。 ・見どころが少ない。 ・排他的な雰囲気がある。



図表 15 発表用模造紙①（B 班）

＜C 班＞

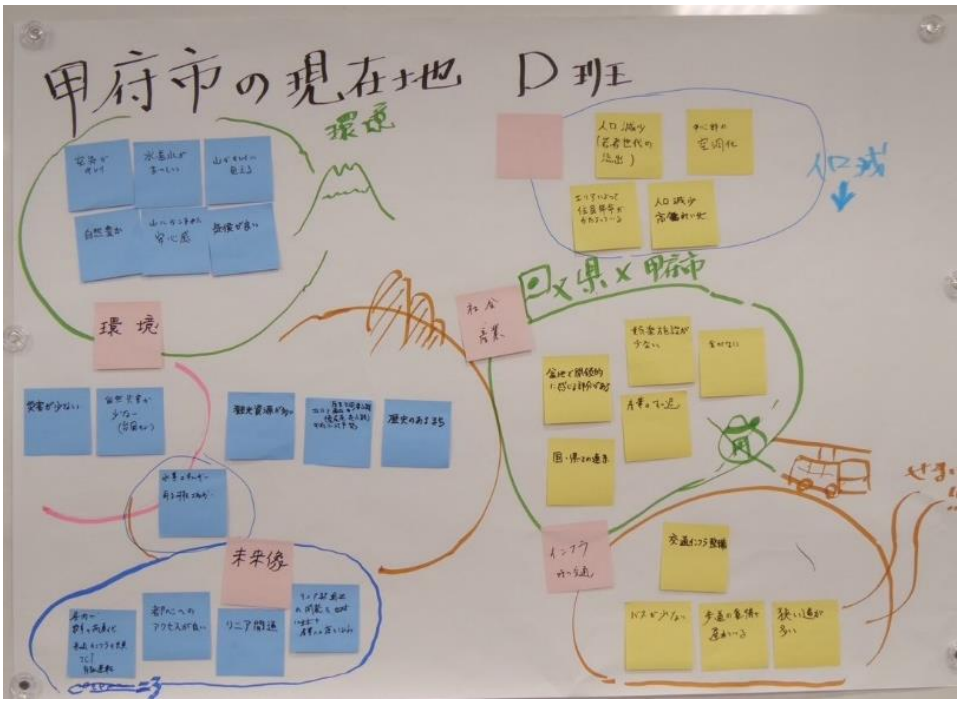
甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・自然が豊か。 ・災害が少ない。 ・果物が豊富。 ・季節ごとに風景が美しい。 ・富士山が美しい。 ・子どもの医療費が無料。 ・コミュニティがある。 ・人が優しい。	・お祭りなどに人は集まるが続かない。 ・公共交通機関が不便。 ・駐車場が少ない。 ・お年寄りは元気だが若者に元気がない。 ・駅前に居酒屋以外の飲食店が少ない。 ・本屋の数が少ない。



図表 16 発表用模造紙①（C 班）

＜D 班＞

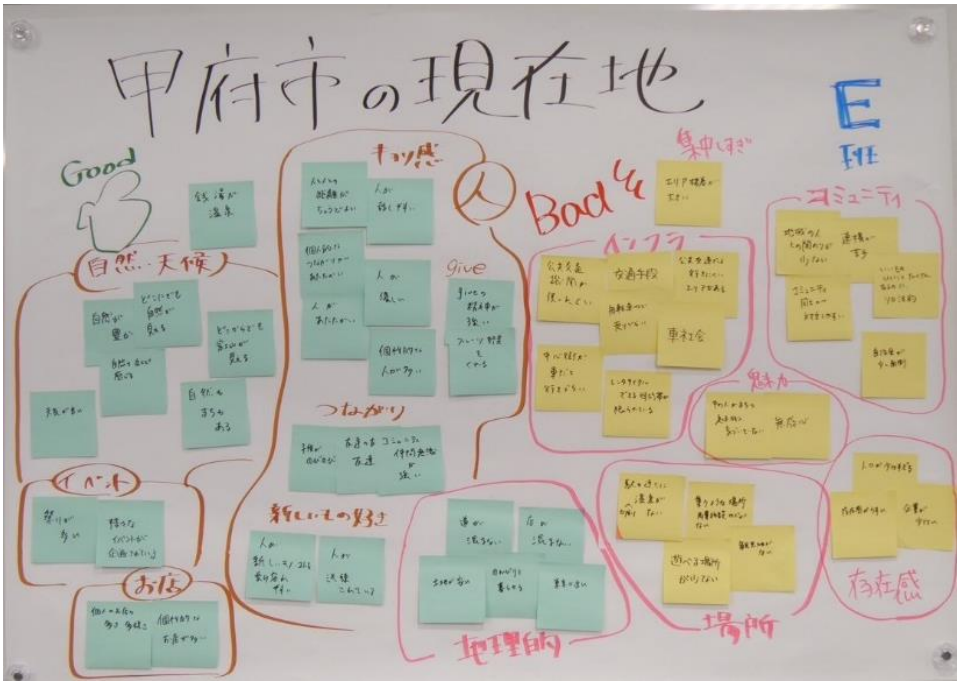
甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・空気がきれい。 ・水道水がおいしい。 ・山がきれいに見える。 ・自然豊か。 ・山に囲まれていて安心感がある。 ・気候が良い。 ・災害が少ない。 ・水素エネルギー・再生可能エネルギーの活用が進んでいる。 ・歴史がある。 ・観光資源が豊富。 ・都心へのアクセスが良い。 ・リニア中央新幹線が開通する。	・人口が減少している。 ・中心街の空洞化。 ・高齢化が進んでいる。 ・盆地で閉鎖的に感じることがある。 ・国や県との連携に課題がある。 ・産業が衰退している。 ・娯楽が少ない。 ・交通インフラが不十分である。 ・バスが少ない。 ・歩道の整備が遅れている。 ・道が狭い。



図表　17　発表用模造紙①（D 班）

＜E 班＞

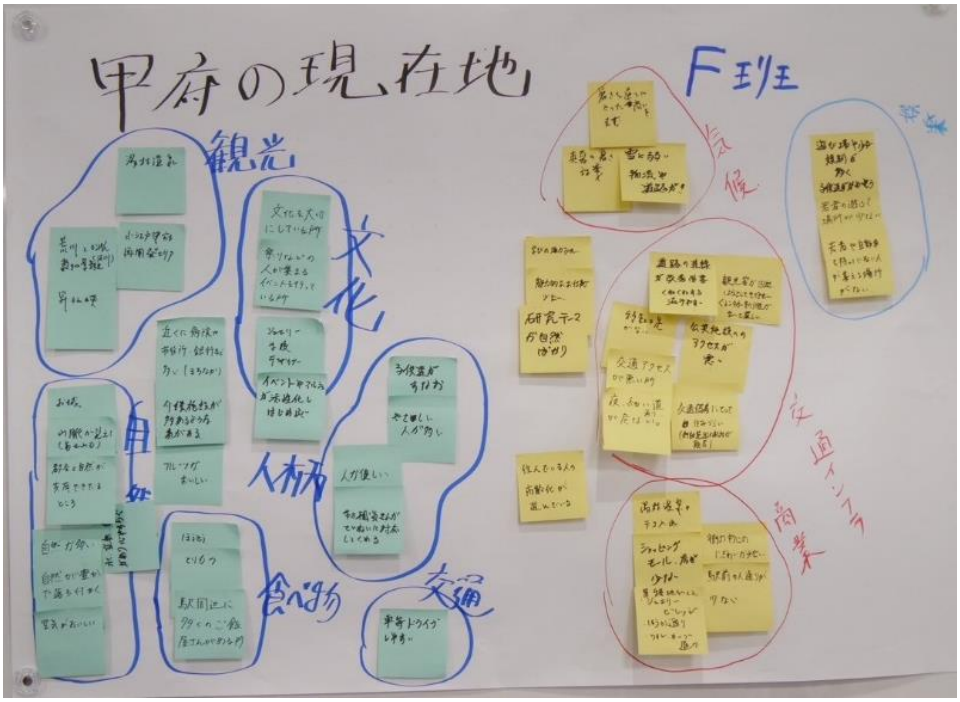
甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・自然が豊か。 ・富士山が見える。 ・温泉がある。 ・お祭り、イベントが多い。 ・個性的な店が多い。 ・人が優しい、あたたかい。 ・人と人とのつながりが多い。 ・コミュニティがあり仲間意識がある。 ・子どもがのびのびしている。 ・人が新しいもの好きである。 ・のんびりと暮らせる。 ・混み具合がちょうどいい。 ・東京に近い。	・交通手段が少ない。 ・中心街に車で行きにくい。 ・エリアによって繁栄度に差がある。 ・市民が街の魅力に気づいていない。 ・地域の人とのかかわりが少ない。 ・コミュニティ間の関わりが足りない。 ・連携が苦手。 ・観光地が少ない。 ・存在感が薄い。 ・企業が少ない。



図表　18　発表用模造紙①（E 班）

＜F 班＞

甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・温泉や昇仙峡など観光地が多い。 ・自然が豊か。 ・都市と自然のバランスが良い。 ・空気がおいしい。 ・フルーツがおいしい。 ・文化を大切にしている。 ・祭りなどのイベントがある。 ・子どもが素直。 ・人が優しい。 ・ほうとうなど食べ物がおいしい。 ・飲食店が多い。 ・ドライブしやすい。	・夏は暑いが、冬は雪が多く、寒い。 ・学びの場が少ない。 ・魅力的な仕事が少ない。 ・交通アクセスが悪い。 ・公共施設へのアクセスが悪い。 ・交通弱者にとって住みづらい。 ・若者の遊び場所が少ない。 ・若者や車を持っていない人が集まれる場所がない。 ・買い物ができる場所が少ない。 ・駅前の人通りが少ない。



図表 19 発表用模造紙①（F 班）

＜G 班＞

甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・中核市で裁量がある。 ・車で生活しやすい。 ・イベントが多い。 ・チャレンジ精神がある。 ・自然が多い。 ・山が映える。 ・子育てしやすい。 ・子育て支援センターが地域ごとにある。 ・適度な距離感。 ・賑わいがある。 ・いい人が多い。 ・人と人とのつながりがある。 ・災害が少ない。	・地域の人の顔が分からない。 ・空き家が多い。 ・駄菓子屋の危機。 ・車がないと生活しづらい。 ・まちなかへの人の流れが少ない。 ・学童クラブの環境があまりよくない。 ・来たりもん文化がある。 ・座れる場所が少ない。 ・公園の制約が多い。 ・車がないと生活しづらい。 ・公共交通機関が不便。

図表 20 発表用模造紙①（G 班）

3.2. 意見のまとめ（甲府市の良いところ/改善点）

甲府市の良いところとして、自然環境に関する意見が多く出されており、富士山など魅力的な景観があることや、自然と都市のバランスが優れているという良い意見が多くありました。また、災害の少なさを評価する意見もありました。

甲府市の改善点としては、交通環境に関する意見が多く出されており、公共交通機関が充実しておらず、車社会のため車なしでは生活しづらいという意見がありました。

観光・特産品に関する意見として、温泉や昇仙峡など観光地の充実や、果物やお菓子、郷土料理などのおいしい食べ物の豊富さを評価する意見が多くありましたが、一方でより効果的な情報発信が必要との意見もありました。

地域経済に関する意見として、水素エネルギーの活用など特徴的な産業が見られるという意見がありましたが、一方で中心市街地の空洞化、企業の少なさや魅力的な仕事が少ないなどの改善点も挙げられています。

＜主な意見＞

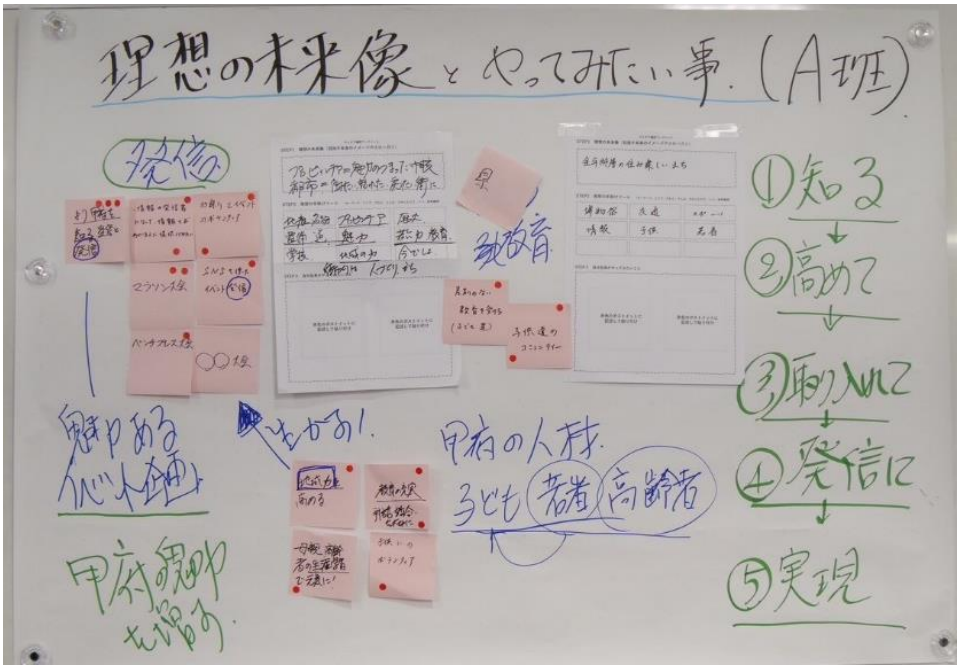
甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・自然が豊かである。（富士山、昇仙峡、温泉など） ・災害が少ない ・食べ物がおいしい。（果物、郷土料理など） ・水素エネルギー・再生可能エネルギーの活用が進んでいる。 ・人が良い。（優しい、あたたかい、つながりがある）	・交通の便が悪く、車なしでは生活しづらい。 ・中心市街地の空洞化が進んでいる ・産業が衰退している。 ・企業が少ない。 ・魅力的な仕事が少ない ・情報発信力が低い。 ・地域の人と交流が希薄な部分もある。

3.3. 意見の一覧（甲府市の理想の未来像とやってみたいこと）

各グループより出された意見をまとめました。

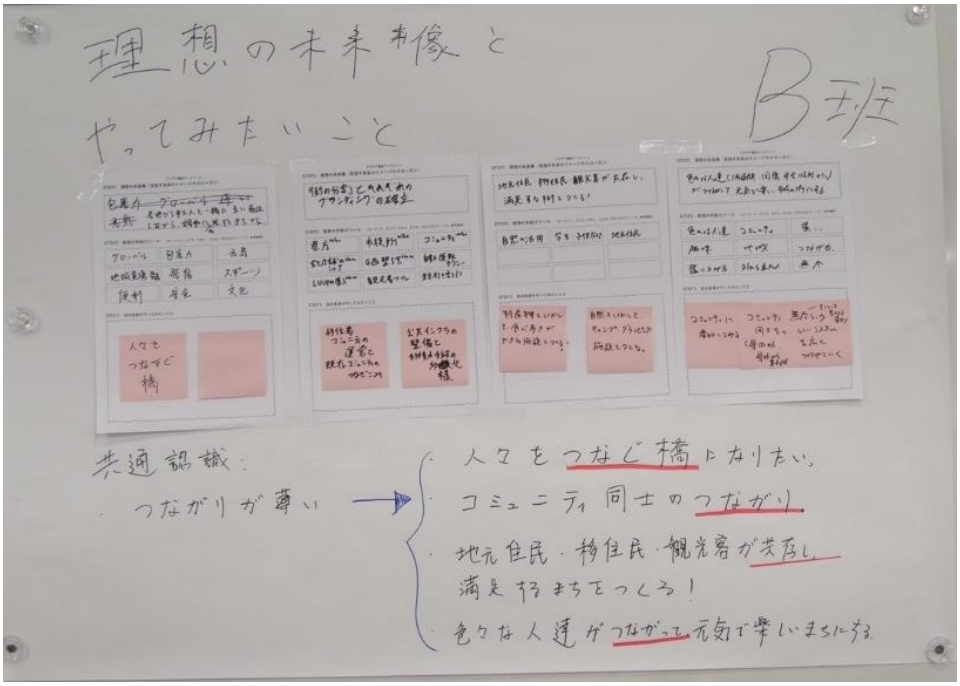
＜A 班＞

「理想の未来像」：	・住みたい、訪れたいまち。
やってみたいこと：	・甲府市の魅力を知る→高める→取り入れる→発信する→実現する、流れを作る。 ・自ら情報発信者となる。 ・SNS を使い情報発信する。 ・魅力あるイベントを企画する。 ・地域力を高める。 ・教育を充実させる。 ・生涯学習を行う。 ・ボランティアに参加する。 ・甲府の良さを発信する。 ・甲府の人材を活かす。



図表 21 発表用模造紙②（A 班）

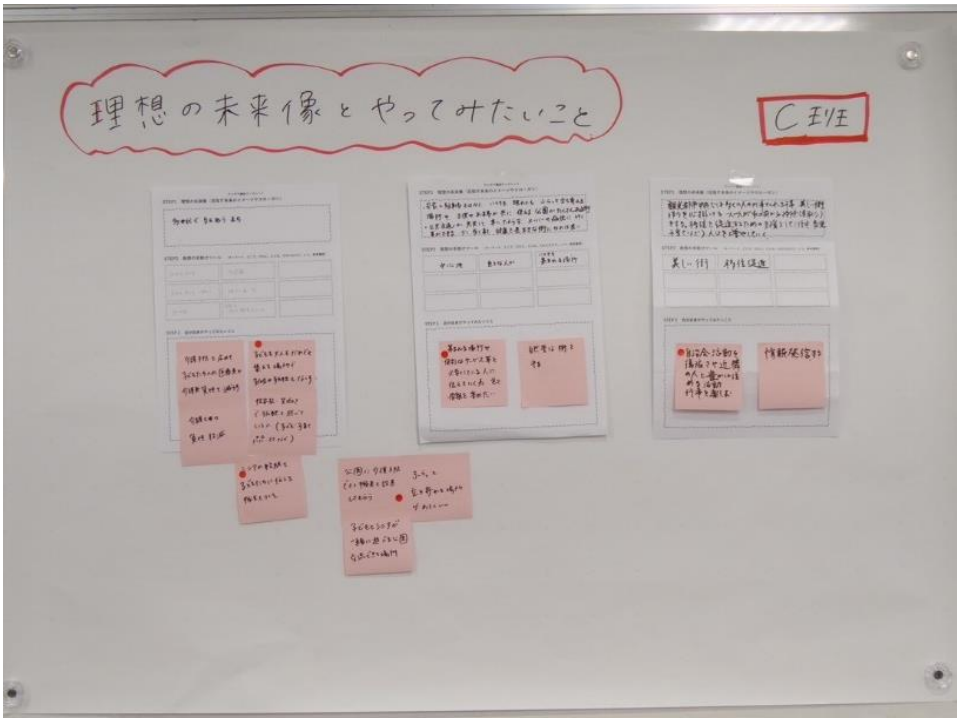
＜B 班＞	
「理想の未来像」：	・色々な人たちがつながって元気で楽しいまち。
やってみたいこと：	・人々をつなぐ橋になる。 ・移住者コミュニティの運営と既存コミュニティとのつながり作り。 ・公共インフラの整備。 ・特産品の食べ歩きをできる施設を作る。 ・自然を生かしたキャンプ施設を作る。 ・コミュニティに参加する。 ・人と人をつなげる。 ・地元の人、移住者、観光客が共存し満足できる街にする。 ・いろいろな人が繋がって元気で楽しい街にする。 ・自動運転タクシーなど新たな交通手段を導入する。



図表 22 発表用模造紙②（B 班）

＜C 班＞

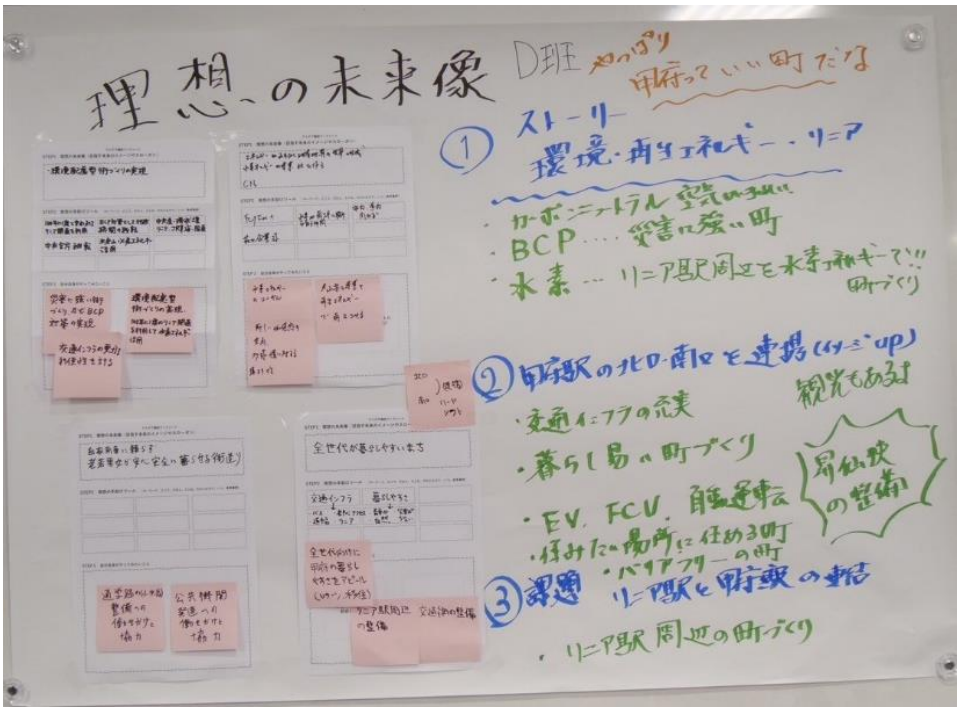
「理想の未来像」：	・多世代が暮らしやすいまち。
やってみたいこと：	・コミュニティ形成を進め介護の負担を減らす。 ・子どもやひとり親世帯の保護者の集まれる場を作り、孤立を防ぐ。 ・シニアの経験を子供に伝える場を作る。 ・自治会活動など近隣との交流を深める。 ・情報発信をする。



図表 23 発表用模造紙②（C 班）

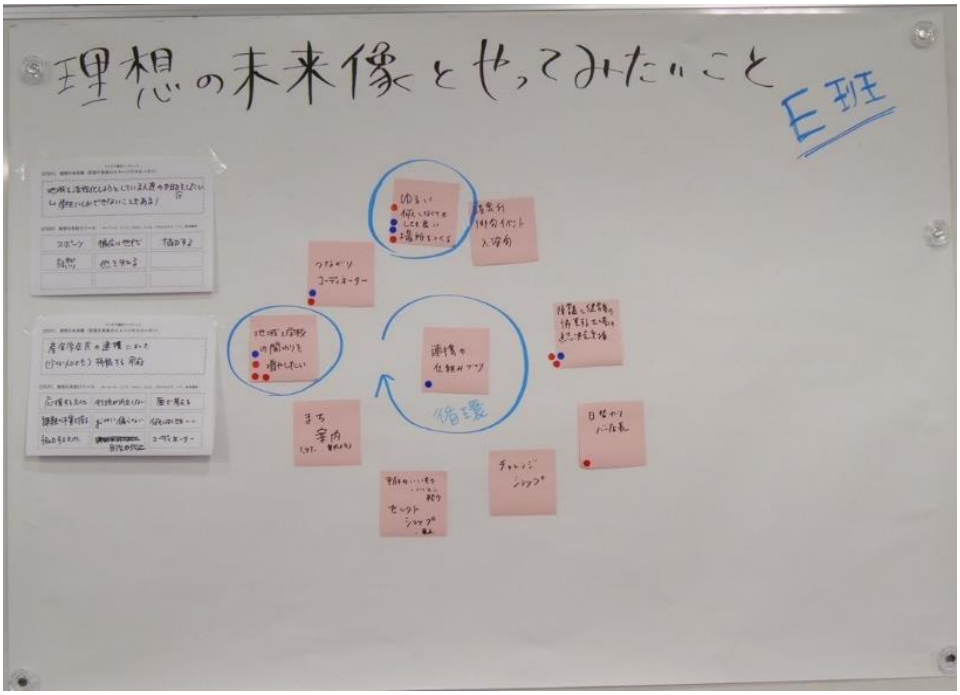
＜D 班＞

「理想の未来像」：	・環境・再生エネルギー・リニアを活用するまち。 ・甲府駅の北口と南口を連携している。
やってみたいこと：	・災害に強い街づくりをする。 ・交通インフラの利便性を向上させる。 ・環境に配慮したまちづくりを行う。 ・水素エネルギーでまちづくりを行う。 ・再生エネルギーを活用する。 ・通学路の整備を働きかけ、協力する。 ・公共交通機関の整備を働きかけ、協力する。 ・全世代向けに甲府の暮らしやすさをアピールする。 ・リニア駅周辺を整備する。 ・昇仙峡の価値を高める。 ・バリアフリーの街にする。



図表　24　発表用模造紙②（D 班）

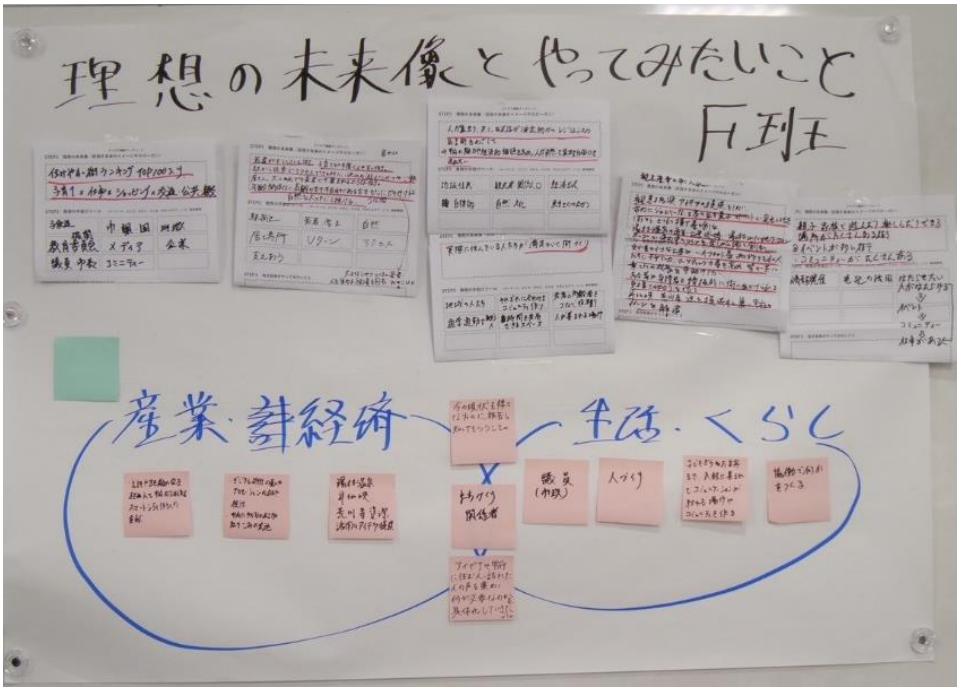
＜E 班＞	
「理想の未来像」：	・コミュニティの連携が進んでいる。 ・ゆるく暮らせるまち。
やってみたいこと：	・緩い何もしなくていい場所を作る。 ・地域と学校のかかわりを深める。 ・産官学連携を行う。 ・連携を進めるコーディネーターの役割を果たす。 ・街を案内する。 ・甲府のいいものを集めたセレクトショップを作る。 ・日替わりバーを作り店長をする。 ・俳句イベントを開催する。 ・障がいのある人と協働する。



図表 25 発表用模造紙②（E 班）

＜F 班＞

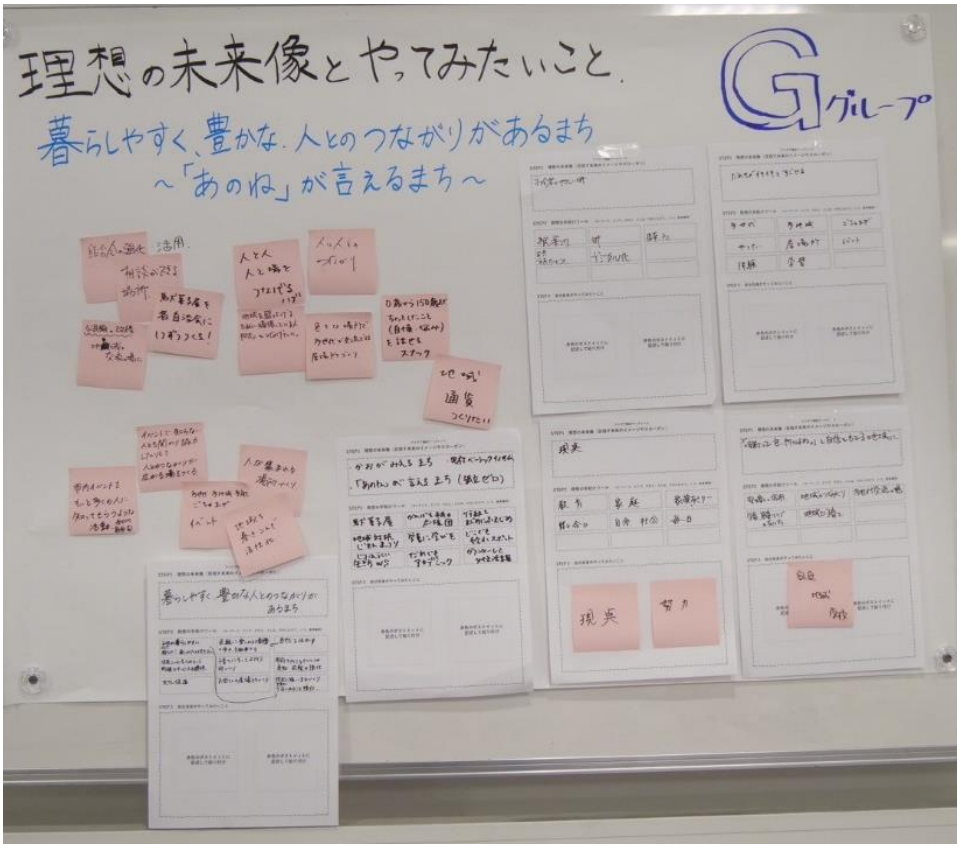
「理想の未来像」：	・産業が活性化している。 ・生活・暮らしが向上している。
やってみたいこと：	・スマートシティの実現。 ・デジタルを活用したプロモーションの実施。 ・温泉などの観光資源を活用する。 ・甲府市の現在を色々な人に知ってもらう。 ・市民のアイデアを集めて必要なことを具体化する。 ・子供からお年寄りまで幅広い年代でコミュニケーションをとれる場を作る。 ・積極的に経済を回す。 ・若者が暮らせる場所を作る。



図表 26 発表用模造紙②（F 班）

＜G 班＞

「理想の未来像」：	・暮らしやすく、豊かな、人とのつながりがあるまち ・「あのね」が言えるまち
やってみたいこと：	・子育てなど、教えあい助け合いをする。 ・駄菓子屋を各町内会に一つ作る。 ・参加者間のコミュニケーションが取れるイベントを実施する。 ・自治会の強化。 ・相談のできる場所を作る。 ・市内のイベントをもっと知ってもらうための活動をする。 ・地域をイベントで活性化する。 ・人と人をつなげる。 ・年代問わずちょっとしたことを話せる場所を運営する。 ・地域通貨を作る。



図表 27 発表用模造紙②（G 班）

3.4. 意見のまとめ（甲府市の理想の未来像とやってみたいこと）

甲府市の理想の未来像として、人づくりや人とのつながりによって地域活動、経済が活性化し、生活・暮らしが豊かになるといった意見が多く見られました。また、人や地域、団体等が連携することで、暮らしやすいまちになる意見も多くありました。

理想の未来像に近づけるためにやってみたいこととしては、人と人とのつながりを生み出せるような場を作りたいという意見が多くありました。また、魅力ある中核都市を目指して、甲府市の良さを自ら積極的に発信したいという意見も多くありました。

他にも、理想の未来像及びやってみたいこととして、水素エネルギーなど新しいエネルギーや自然環境の活用、産官学連携の推進や甲府市の良いものを集めたセレクトショップの運営、地域通貨の作成などまちの産業振興に関わる様々なアイデアが集まりました。

＜主な意見＞

「理想の未来像」：	・人づくりによって産業・経済が活性化し生活・暮らしが豊かになるまち。 ・色々な人たちがつながって元気で楽しいまち。 ・産官学、地域、コミュニティが連携し、様々な場所が提供されるまち（ゆるく暮らせるまち、「あのね」が言えるまち。）。 ・環境・再生エネルギー・リニアを活用するまち。 ・暮らしやすく、豊かな、人とのつながりがあるまち ・魅力のある中核都市
やってみたいこと：	・SNS 等を使い情報発信を行う。 ・人と人をつなげる。（イベントを開催する、コミュニティを運営する、学校と地域で連携する） ・まちづくり、インフラ整備に貢献する。 ・産業振興に携わる。（水素エネルギーを活用する、産官学連携を推進する、セレクトショップを運営する、地域通貨を作成する）

3.5. グラフィックレコーディング

今回のワークショップでは、グラフィックレコーディングという技法を用いて、ワークショップの様子を記録しました。

図表 28 グラフィックレコーディング

3.6. 閉会の挨拶

企画部奈良田部長からワークショップ参加者に向けて、各グループから頂いた意見の感想と、今後の総合計画への反映方針についてお話し、閉会の挨拶をいたしました。

図表　29　閉会の挨拶の様子

4. 参考資料

4.1. 集合写真

ワークショップの最後に、参加者全員で記念撮影を行いました。

図表 30 集合写真